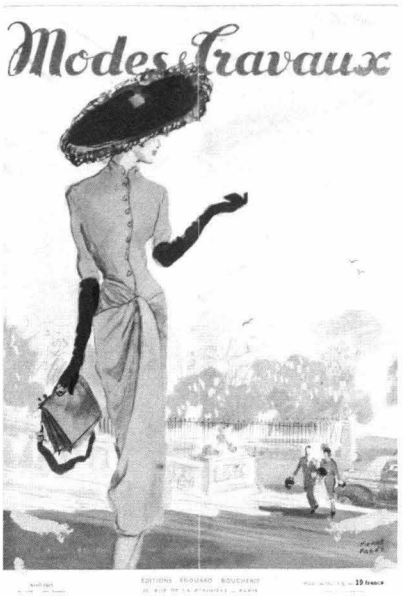
Modes et travaux（モード・エ・トラヴォー）

Paris ： Éditions Edouard Boucherit , 1919－



1947年4月号の表紙
デザインはジャック・ファト

「モード・エ・トラヴォー」は、第一次世界大戦も終わり新しい時代への期待が高まる1919年、パリで創刊された。発行はEdouard Boucherit。初めは、Modes & travaux féminins のタイトルで発行されている。本館の所蔵は1927年の4月号、通巻176号が一番古く、ところどころ所蔵の欠号はあるが1997年までの約70年分を所蔵している。本館で所蔵していない1928年9月から1930年2月の間にタイトルからféminins の表示が消え、1930年3月号ではModes & travaux となっている。1997年からフランス国外での販売を中止しているため日本での入手は困難であるが、フランスでは現在もよく読まれている雑誌のひとつである。

「モード・エ・トラヴォー」は、“ファッションと仕事”と訳すことができるが、初期の頃のタイトルからみると“仕事”は“職業”の意味ではなく“女性の手仕事”とするのが適当であろう。1000号となった1984年3月号にはこの雑誌の歴史を振り返る記事が掲載されている。それによると、「モード・エ・トラヴォー」は当時の雑誌のなかで販売部数の多い二つの雑誌、中産階級向けの「ル・プチテコー・ドゥ・ラ・モード（Le petit echo de la mode)」とスノッブな人々を読者と想定した「ル・ジャルダン・デ・モード」(Le jardin des modes) を意識しており、「モード・エ・トラヴォー」はその中間の裕福な中産階級に属し、審美眼にすぐれ手作りを愛するすべての女性を対象と考えていた。実際の誌面をみると各時代を通して実用的な記事、子供服の記事や広告が目立ち、家事を楽しむ若い既婚女性を主な読者対象としているように感じられる。時代とともに外観や内容は少しずつ変化しているものの、各時代ともファッションの紹介を記事の主体とし、手芸などの技法を含めた実用的な記事を後半に添えた構成は変わらない。

この雑誌の特徴のひとつは、別刷りの型紙が毎号付録としてついてくることで、型紙には各号で紹介した婦人服、子供服の製図や刺繍の図案などが実物大で印刷されている。本館では1927年頃の型紙も所蔵しており、かなり早い時期から付録つきで発行していたことがわかる。

刊行頻度は、1941年頃までは月2回刊、1942年から月刊となっている。月刊となった背景に第二次世界大戦があるが、大戦中には刊行頻度が少なくなったばかりではなく、ページ数も減り、表紙も含めてわずか12ページの号も2－3度発行されている。1000号の記事ではEdouard Boucheritが戦時中も発行を続ける決意をしたことがそれに伴う苦労とともに記されている。他のファッション雑誌が中断を余儀なくされるなかで、大戦中の中断がないことは特徴のひとつとして挙げることができるであろう。

（柳沼恭子）